

水道料金について

リポーター 佐藤 実 (天神緑町)

六年度最初の市民リポーターだよりです。佐藤、折田両リポーターが、おの市の役所の水道課、税務課で取材しました。これから毎月一日号に、六人のリポーターが独自に取材した記事を掲載します。お楽しみに。

最近まで水と空気が安全はタダといわれた日本ですが、時代の流れと共に、水にも安全にも金がかかるようになったことは、国民の一人としてまた市民の一人として当然なことと思っています。

さて、おいしい安全な水を利用するために、私たちは水道料金を支払っているわけですが、大館の水道料金について私の意見を率直に述べさせていただきます。

三十数年ぶりで故郷に帰ってきて、一番に感じたのは大館の水道水はおいしいということでした。私がおいた川崎市の水道水も結構おいしかったのですが、大館の水が数段上です。そして思ったのは、水道料金が随分高いということです。



水道課で取材する佐藤リポーター(右端)

川崎市では基本料金がなく、検針は二カ月に一回でした。ですから支払いも二カ月単位で、二カ月の最低料金は0立方メートルから十六立方メートルの使用で八百六十五円、一カ月当たりになると四百三十三円で済んでいたわけですが、紙面の関係で詳しい料金表は載せられませんが、せめて秋田市並みにしてほしいものです。先日、山館浄水場を見学させていただき、取水から配水までに随分コストがかかることがわかりましたが、これはどの都市でも同じことだと思えます。人口百万の都市と七万人前

後の大館市とを単純に比較はできないでしょうが、できるだけコストを下げ、利用者が増えるよう努力してもらいたいものです。

日ごろ、ともすれば水道水は空気が同じでいつでもあるもの、蛇口から出てきて当たり前と思ってしまうのは私だけではないでしょう。古い話ですが、私が小学校に入学したころ、学校にはつるべ井戸がありました。今の若い世代は見ただことも聞いたこともないと思

『特別減税!?!と私』

リポーター 折田 誠子 (清水町)

日ごろ、よほどのことがないと何事にも興味を示さない私。もちろん「税金」のことなど言うまでもありません。その私が、突然、どうして今回実施される特別減税に興味を示したのか?と申しますと……。

第一に、主婦になったからである(とはいってもまだまだ新米)。第二に、「特別減税」でこの夏お金が戻る!と聞いたからである(まずはラッキーの一言)。「そういえば、テレビや新聞で騒いでたのはこのことだったの?」と、自分には関係ないと思っていたことが実は一番あると気付いて、日ごろの自分の無関心を反省しました。

います。その後、手押しポンプの時代になりましたが、どこの集落でも井戸は少なく、大人も子供も水運びで苦勞しました。

現在、生活様式は余りに便利でぜいたくなものになってしまいましたが、市の上水道であれ自家水であれ、蛇口をひねればいつでも水が出ることに感謝しながら、いつまでも、おいしくて安全な水を低料金で届けてほしいと願う今日このごろです。

平成六年度分の所得税と住民税について、税額の二〇%相当額を本来納付すべき税額から還付するというこの制度は、今年度限りとのこと。市役所の方から「所得税の方は、サラリーマンなら年末調整が六月と十一月の二回あると思っただければ」と言われ、少し理解した私。一方住民税は、徴収方法が特別徴収と普通徴収の二通りで、それぞれの特別減税の仕方は、特別徴収の場合、六月と七月分については徴収せずに、減税額を控除した後の年税額を八月から翌年五月までの十カ月間に分けて徴収。普通徴収の場合は、六月分で減税額を控除してしまうという事です。「なんかどっちにする住民税は直接還付されないん

だし、あまり変わらないのでは」と妙に考えてしまった私。「でも所得税は戻ってくるからやっぱりラッキーかな?」とつい口にしてしまったら、「来年度に特別減税がないと、今回減税された分が増えたように感じるでしょうね」という一言(やっぱり何も知らなかった私)。来年度はなくなってしまうとしたら、本当に景気回復策の一つになるのだろうか、生意気にも考えてしまいました。

こうして「特別減税!?!と私」は、言葉すら脳裏になかったものから、簡単ではありますが理解と納得、そして少々生意気な疑問を感じ取りました。それに、久しぶりに自分自身で勉強したような気もしました。皆さんはこの制度をどう受け止めていたでしょうか?もし興味がおありの方でしたら、市役所と税務署にパンフレットがありましたからお勧めします。



市民税係長に説明してもらいました